

あらた同窓會

平成28年 春季号

平成28年3月25日発行

鹿児島大学農学部
あらた同窓会報

電話 099-285-8537
振替口座 02010-2-876



平成27年度会費納付のお願い

(会計年度：平成27年10月1日から平成28年9月30日)

本会は、会員の年会費をはじめ、新入生が納付する入会金と会費などを主な財源として運営されています。ところが近年、本会の年会費の納付者数に明確な漸減傾向が認められ、平成21年度にはついに会計収支が赤字に転じ、その後赤字が2カ年継続しました。

平成23年度の幹事会で会計の健全化について協議を行い、あらた同窓会報の頒布に関して過去に設けた規定「直近の5年間に会費納付実績のある会員に会報を頒布する」を撤廃することを申し合わせました。この申し合わせの趣旨は、定期刊行物の「あらた同窓会報」を所在の確かな全ての会員に頒布することによって、本会並びに母校と会員あるいは会員相互の意思疎通を盛んにするとともに、全員参加型のあらた同窓会を再生し、会計の健全化を達成しようというものであります。

この事業の実施に当たっては、会報の出版経費や郵送経費等の事業費の増額を伴うことから、その一部に充当する「会報賛助金」の拠出を会費免除者である高齢会員並びに終身会員の方々をお願いいたしました。そして、250余名の方々から多額の浄財を頂きました。

平成24年度に始まったこの事業は、徐々に拡大され、会員にもその趣旨が理解されて会費を納付する会員数も増加してきています。皆様のご協力に感謝申し上げます。

本年度は会報を全会員に頒布できましたし、今後発行される会報についても継続して行かねばなりません。この事業の継続には会員の会費納付が不可欠であります。より一層のご協力をお願いいたします。

本会は、母校が開学以来百有余年に亘って築き上げてきた、輝かしい校風と伝統を未来に伝承して行かねばならない使命を背負っています。この使命の達成には、同窓会活動に対する会員の理解並びに積極的な参加と協力、さらに会計の健全化が不可欠です。

年会費は2,000円です。同封の郵便振込用紙をご利用ください。

事務局案内【事務局執務体制】

執務日：月、水、金曜日 10：00～16：00

TEL・FAX：099-285-8537

E-mail：aratakai@mc2.seikyou.ne.jp

住 所：〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-24

鹿児島大学農学部あらた同窓会

目 次

会長挨拶	
伝統ある「あらた同窓会」へ、ようこそ……………	藤田 晋輔 … (2)
学部長挨拶	
ご苦労様でした、これからもよろしく！……………	岩井 久 … (3)
プロジェクト	
鹿児島地域との連携ネットワーク活動を開始……………	枚田 邦宏 … (4)
退職される恩師	
「すばらしい学生達に囲まれて」……………	河野 澄夫 … (5)
鹿児島大学を定年退職するにあたって……………	望月 雅美 … (5)
退職のご挨拶……………	杉元 康志 … (6)
講演録	
「会長 島耕作」とTPP ………………	秋山 邦裕 … (8)
支部便り	
宮崎あらた会……………	坂本 博司 … (9)
近畿・兵庫あらた会……………	柳田 興平 … (9)
東海あらた会……………	秋吉 輝夫 … (10)
長崎あらた会……………	寺本 健 … (11)
熊本あらた会……………	角崎 智洋 … (11)
佐賀あらた会……………	佐藤 智明 … (12)
クラス会・グループ便り	
E45年卒 45年目の同窓会 in鹿児島 ………………	花谷 良助 … (12)
佐藤宗治教授退職記念育珍会……………	田浦 悟 … (13)
C23の同期会……………	穂塚 克己 … (13)
果樹園芸学研究室創立45周年記念同窓会を開催……………	熊本 修 … (14)
学生便り	
生物生産学科……………	井立田裕也 … (15)
生物資源化学科……………	山田 義博 … (15)
生物環境学科……………	野中 夏希 … (16)
獣医学科……………	久々宮萌果 … (16)
恩師のお慶び並びに同窓の訃報 ……………	(17)
本部便り ……………	林 満 … (19)
会報賛助金の協賛者ご芳名……………	(21)
役員名簿 ……………	(21)
会計報告 ……………	(22)
鹿児島大学農学部あらた同窓会会則 ……………	(24)
編集後記 ……………	樗木 直也 … (裏表紙裏)

伝統ある「あらた同窓会」へ、ようこそ



あらた同窓会会長
藤田 晋輔

今年も「鹿児島大学農学部あらた同窓会」は、「学生会員」であった、大学院修了生、学部卒業生の皆様を正会員として迎える時が巡ってきました。大学院修了並びに学部卒業の皆様にお祝い申し上げます。私達の母校は1909（明治42）年開学以来、鹿児島高等農林学校、鹿児島農林専門学校、そして1949（昭和24）年の学制改革による新生「鹿児島大学農学部」へと引き継がれ、まもなく開学110年を迎えます。周知のように、約20,000名に近い「あらた同窓会」会員の先輩諸侯は、高い目標と使命感のもとに国内だけでなく世界各地で多くの領域・分野、職域で重要な活躍をされています。歴史ある同窓会に新たな正会員として仲間となる皆様も、それぞれの分野について学び、会得された多くの知識、実践・実行力を十分に発揮され、今後国内外の多くの分野で大いに活躍されることを期待し、念じてやみません。

これまで、諸君が学んできた農学部は、1990（平成2）年、1997（平成9）年に獣医学科以外の学科改組が行われました。獣医学科は国際的に通用する獣医学教育の必要性から、2012（平成24）年山口大学をパートナーとした「共同獣医学部」として農学部から分離独立しました。さらに2015（平成27）年には「国際並びに地域貢献」という分野を取り込んだ教育、研究分野の強化を意識した改革が行われました。また、2016（平成28）年春には学科改組を含めて更なる改革が行われると聞いております。このように農学部の教育課程（学科名）は、文部科学省、農林水産省の政策の変化の中で、教育・研究体制の変革とともに、時代に即した体制に追随する必要から、学科名も変わり、多くの卒業生各位には理解しがたくなっていると思います。

しかし、これからTPP（Trans-Pacific Partnership、環太平洋連携協定）を初め、食の安心・安全に関連する規格である「FMI（Food Marketing Institute）やSQF（Safe Quality Food）、HACCP（hazard Analysis and Critical Control Point）など農業を取り巻く環境も否応なしに変革しています。これらの変革に対応できる新しい会員が続々加わっていることは大変喜ばしいことです。

100年以上前、1909年の開学精神・思想であった「南方開発を見据えた地域の農林業を基軸とした地球規模の食糧や環境改善等の解明のため、教育、研究に果敢に挑戦する地である」とした当時の構想は、十分に100年経過した今でも通じるものです。いかに当時の構想が、高い理想と具現化を求めた当時の精神であり、これまで鋭意積み重ねてきた先輩諸氏の輝かしい伝統を引き継ぎたいものです。先人的な思想の中に現代的発想を組み込み、実践的行動ができる新進気鋭の皆様を正会員に迎える事はこの上ない喜びです。

ところで、現在、鹿児島大学は『鹿大「進取の精神」支援基金』の募金を卒業生各位や鹿児島県内外の経済界に依頼しているところですが、同様に本同窓会にも応分の支援が求められています。しかし、本会の運営は主に会員に納付いただいている年会費（納付率約20%）等だけで賄われています。本同窓会は基金に支出できる資金を予算組していませんが、鹿児島大学への協力はいとわなかつもりです。過日臨時役員会に諮り、「会員から毎年納付いただいている会費（浄財）から、向こう数年間の運営費の節約と会費からの捻出」で対応することに致しました。つきましては、多くの会員各位に対して年会費の更なる納入のお願いと、新しく正会員としてお迎えする新卒業生の各位にも、ぜひ平成28年度以降も会費の積極的な納入をお願い致したく存じます。

最後になりましたが、何卒本趣旨にご賛同賜り、会費（年会費：2,000円）納入のさりげないお願いと同窓会活動への積極的な参加のご協力をお願い致します。

ご苦労さまでした、これからもよろしく！

農学部長
岩井 久

このエッセイをどなたに向けて書いたら良いか、少しとまどいがありますね。卒業・修了される方は、この冊子を、卒業式の日にとられますが、来る新入生や学部在籍中の方には4月に配布されますので。でも、やはり、巣立つ方々へのメッセージとします。

長い方は学部・修士を通して6年、他大学出身者や留学生においては2年の短期間でしたが、本学に在籍中の、鹿児島での生活はいかがでしたか？

皆さんにとって、大学生としての日々は、人生の中で最も自由で時間に恵まれた期間でしたが、十分に利用・満喫できたでしょうか？・・・勉強や卒論・修論研究の他にもサークルや部活動、アルバイト、ボランティア、資格取得、さらには、海外研修や学会発表などを体験された方も少なからずおられることでしょう。種々の事情で、予定よりも少し長く在籍した方もおられますが、その分だけ徳をした面があるかも知れません。あせることなく、社会人としての長い船出の途についてください。とにかくひとまずは、皆さんの門出を心より祝福いたします。

このおめでたい日に僭越ではありますが、学部長として、皆さんにお願いと希望があります。それは、鹿児島大卒であることに誇りを持ち続けて頂きたい。そして、新しい赴任地・職域においてもしも機会があるようでしたら、同じ鹿児島大学出身者を見つけて新たな人間関係を築いてください。これは出身学部を問いません。このようなことを申し上げると、「別に鹿児島大にこだわること無いし・・・！」と思われる方がおられるとは思いますが。若いときは無理からぬことです（正直申し上げて30数年前の私もそうでした）。ところが、それぞれの職場や取引先などとの関係、あるいは将来家庭を持ち子育てや地域と関わる中で遭遇する諸々で、意外に多くの「鹿児島大出身」との巡り会いが多いこと・・・またそのような先輩・同輩・後輩が、様々な局面で結構な救いになることを今の年齢に達してつくづく思い知らされています。これは別に大学に限ったことではなく、気心の知れた小中高校の同窓生にもいえることではありますね。しかし、最初に申しましたように、4年生大学での数年間の物心両面にわたる自由度は、それ以前とは比べものにならないものであり、その間に築いた友人関係はひととき濃厚であったことを思い出してください。

そして、皆さんは新天地において、実は今まで日本中でも最も面白い場所で数年間を過ごしていたことを、再認識されることでしょう。来鹿したことのない新しい同僚から「へえ～！鹿児島の出身ですか？」に始まり、温泉のこと桜島のこと、色々と質問されること間違いありません（私も若いときに体験しました）。その時には、少しだけ得意になって鹿児島の宣伝をしてください。そして、可能であれば、その新しいお友達をエスコートして鹿児島に「里帰り」してください。

その方達も一緒に焼酎のお湯割りを飲みましょう！

鹿児島地域との連携ネットワーク活動を開始

プロジェクト責任者

枚 田 邦 宏

農学部では、平成27年度学長裁量経費として「地域の農林畜産業の課題解決の知の拠点としての農学部変革－地域連携のための基盤整備を通して農学部を強くする－」をテーマにして新たなプロジェクトを開始しました。このプロジェクト（通称地域連携ネットプロ）では、農学部の教職員が鹿児島の各地域を訪問し、地域課題を掘り起こし、具体的に取り組むこと、地域の人々に鹿児島大学農学部に対する壁を低くし、地域課題を教育研究で取り上げて、地域とともに農学部が歩む基盤作りをすることを目的としています。

農学部の教職員は、いままでも専門分野毎に地域の求めに応じて研究や学生教育を通して地域と関わってきました。地域連携ネットプロの中では、各個人の地域活動について調査を行い、地図上に示し（地域連携ネットワークHP参照のこと）しました。本土ならびに離島の各島に出かけていることがはっきました。また、同じ地域に様々な分野の教職員が訪問し、活動しており、教員間の連携も可能であることがわかりました。さらに活動の編み目を細かくするとともに、多分野の教職員が特定の地域に入って分野を横断する形で地域課題に取り組むことも必要であることが明らかになりました。

このような調査とともに、鹿児島県内の振興局・市庁を単位に農学部の教職員が地域に赴き、農林畜産および加工工場等を視察させていただき、地域の行政ならびに関係者の方々と懇談会を開催して、地域で問題になっ



ていることを知る機会を得ました。また、時間の都合がつかない地域では、意見交換会で酒を酌み交わしてお話をお聞きしました。このような懇談会は、7振興局・支庁の8カ所で開催し、表1のように多数の参加者を得ました。

本年度の活動は、1月29日に鹿児島大学農学部でプロジェクト報告会を開催し、鹿児島大学前田学長ならびに鹿児島県農政部長をはじめとする100名を越える参加者を得ることができました。なお、活動内容については、順次農学部のホームページの中で公表していく予定です。地域課題の中で取り組むことができることから、活動を開始することにしています。同窓生の皆様には、今後とも南九州地域とともに活動する農学部として発展を期していきますので、ご助言、ご支援の程よろしく願います。

表－1 地域振興局・支庁での地域懇談会の開催日時および参加者数

地域振興局・支庁	担当教員	打合せ 実施日	懇談会等 開催日	参加人数 大学・地域
鹿児島地域振興局	坂井	7/31	8/31～9/1	9人・9人
南薩地域振興局	加治屋	8/12	9/30～10/1	12人・27人
北薩地域振興局	高山	8/21	10/26	7人・22人
始良・伊佐地域振興局	寺岡	8/11・27	11/4・11	5人・21人
大隅地域振興局	北原	8/19	11/16～17	18人・22人
熊毛支庁	河野	8/20	11/12～13	17人・25人
大島支庁	津田	8/14	10/1～2	12人・46人

退職される恩師

「すばらしい学生達に囲まれて」



生物環境学科
環境システム学講座
食料環境システム学研究室

河野 澄夫

突然テーブルが前後左右に大きく揺れ動いた。白板も数メートル横に滑った。ガタガタ、カタガタ、危ないと思いつきにテーブルの下にもぐった。2011年3月11日に発生した東日本大震災の時、私は茨城県つくば市の国の研究所の一室で、ある研究プロジェクトの年度末会議を行っていた。その年の4月、縁があって鹿児島大学農学部教授として着任した。時の立つのは速いもので、それから5年間が経過しようとしている。

国の研究機関から大学に移って最初に戸惑ったのが、授業をどの様に行ったらよいかであった。知識の切り売りでは、大学の先生より予備校の先生の方が上手と思った。予備校の先生は永年の経験からそれぞれの専門の科目をどの様な順番でどの様に教えたらいいかを把握していると思う。新米先生の私はしばらく試行錯誤し、他の先生方の授業も参考にして、少しずつではあるが自分特有の授業の仕方を工夫した。そして、たどり着いたのが学生達に考えさせる授業をすることである。毎回授業の終わりに、次の授業の内容に関する宿題（予習）を与えた。例えば、「青果物の真空予冷について説明しなさい。」などである。まだ、授業をしていない内容なので自分で調べる必要がある。自分で調べる訓練にもなると思った。その宿題のレポートは毎回授業の終了時に集め、採点して翌週学生に戻した。レポートには、授業に対する要望及びその他の相談のコーナーも設けた。学生からは色々な意見が寄せられた。

私の研究室は教授室及び准教授室の前が大部屋となっており、その大部屋に毎日多くの学生が集まった。大学院生を中心に、卒業研究を行っている4年生、及び4年生の実験の手伝いをしている3年生などである。研究内容のこと、就職のこと、バイトのこと、恋愛のこと（?）、話題は様々である。時には私も話し仲間に入れてもらった。若い学生からエネルギーをもらい、精神年齢は段々と若返った。関東で開催される前の職場のOB会に出席

すると以前より若くなったねとよく言われた。

学生達に残したい言葉がある。NHKの昨年の大河ドラマ「花燃ゆ」の吉田松陰先生のことばに「あなたの志はなんですか？」があった。自分達の可能性について議論し、悩むことも学生に与えられた特権だと思う。

最後に、私を農学部の教授として暖かく受け入れて下さった先生方に感謝の意を述べたいと思います。短い期間ではありましたが、ありがとうございました。厚くお礼申しあげます。

鹿児島大学を

定年退職するにあたって



共同獣医学部

望月 雅美

年初にあらた同窓会の富永常任副会長から「何かメッセージを寄せてください」というご依頼がありました。ありがたくお受けし、拙い文ですが、皆様のご記憶の片隅に残らせていただければ嬉しいと存じます。

昭和57年（1982年）の2月にグラスゴー大学獣医学部から鹿児島大学農学部獣医学科の講師として着任しました。その1年前、東京大学大学院の恩師に、「宮崎と鹿児島、望月君の好きな方を選びなさい」と言われ、「どちらが先に申し出てくれました?」、「鹿児島」、「では鹿児島へ参ります」と。その簡単なやり取りで私の人生の方向が決まりました。私の専門は当時まだ珍しかった「犬と猫のウイルス病」で、主に猫の風邪ウイルスや白血病ウイルスを、また着任後は、下痢症の病原体研究も始めました。当時はまだ結構な数の野良犬や野良猫がいたようで、市の野犬保護施設に学生と検体を取りに行く毎日、多くの新種ウイルスを発見することができました。このようなウイルスハンティングは宝探しのような興奮を覚えるものです。しかし、学生の間では「望月先生の部屋に行くウンコまみれになる」という悪評が立っていると噂が立ちました。2015年ノーベル医学・生理学賞受賞者の大村 智先生は同郷山梨です。大村先生の「ゴ

ルフ場の土」ではありませんが、当時、山梨大学教育学部付属中学校の卒業式式辞の時、校長先生が突然式場の体育館から雨の外に飛び出し、土を一掴み持ってきて、この中には我々の知らない宝物が入っている、それを探求する科学の重要性を話してくれた記憶が残っています。武田信玄の甲州金山ではありませんが、山梨県人はそういうのが好きなのでしょうね、私は犬と猫の糞でしたが。そのようなことを繰り返しながら、少しずつですが薩摩に慣れていきました。鹿児島で結婚をし、子供も二人でき、住宅も購入、このまま鹿児島かなと思っていた頃、奉職して14年回目の冬、悪魔のお誘いがありました。

当時、新しいウイルスを発見しても犬や猫を用いた感染実験が思うようにできないという状況にありました。特に鹿児島の研究環境が悪いというわけでもなかったのですが、なんとか打開しないと国際レベルへの発展には程遠いと焦っていました。そこへ、見透かされたかのように、東レとの猫組換えインターフェロン製剤の開発を契機に共立製薬株式会社（当時は共立商事株式会社）が私専用の研究所を本社内（靖国神社の横）に設立しますというお誘いがあり鹿児島を離れました。転職後は機会があればいつでも大学へ戻るつもりでしたし、実際、幾つかお誘いがありましたが、居心地が良かったのでしよう、なんだかんだで60歳の定年まで共立にはお世話になりました。その間、他の会社を含めて役員や取締役なども経験させてもらい、民間企業の経営も学びました。国立大学が法人化されたといっても、今は「鹿児島よ、大丈夫か」といった状態ですね残念ですが、これでは「変革と創造」はとても望めません。ただ私は根が学者研究者ですから、たとえ給料が高くて会社経営は目指すところではありませんでした。ですから60歳が近づくにつれリクルート活動を開始しましたが、高齢者にはそう簡単なものではありません、特に最近は。

そのような折り、鹿児島で教員募集をしているとの話、応募したところ、幸運だったので、話がまとまり今日この日を迎えています。ただ内定した後、1年間は着任に及ばずとのこと、糊口をしのぐために内閣府食品安全委員会の技術参与として働きました。焼肉のO157や牛レバー刺し中毒などを担当させてもらいました。そこでの1年間は、霞が関役人の生態を知る実に良い機会でした。鹿児島に戻ってからの4年間はあっという間でした。研究はほとんどできませんでしたが、私の人生の一つの区切りとして、この鹿児島で二度目の定年退職を大過なく迎えられたことは、鹿児島との「特別なえにし」を感じます。また最後の2年間、学部運営という役目を仰せつかったこと、微力ながら鹿児島への恩返しができたことなど、その機会を与えてくれた学部の若い教員の方々に感謝しています。

鹿児島という少し癖のある地で、合わせて18年間、大学人として過ごしました。その間、大切な友も失いましたが、学内外の多くの方々にお世話いただいたおかげで今日の私があります。万感の想いを込めて、「ありがとう」と申し上げます。

退職のご挨拶



連合農学研究科

杉元康志

あらた同窓会の皆様にかかれましては益々のご健勝お喜びを申し上げます。

ここに2016年3月をもって鹿児島大学を退職いたします。これまでお支え頂きました皆様に改めて感謝申し上げます。農学部にて5年間、連合農学研究科（連大）の専任教員として15年間、計20年間務めさせて頂きました。そのほとんどが連大での仕事でしたので、そのことについて述べさせて頂きます。

連大は設立28年を迎え、これまで830名の課程終了博士を輩出してきました。連大は現在3つの大学（佐賀大学、琉球大学、鹿児島大学・農・水・平成17年度までは宮崎大学も参画）で構成され、多彩な教員組織と独特な教育体制を持つ独立専攻の博士課程です。博士取得には大変高いハードルが課せられ、博士取得の要件を満たさないと学位を取得できない制度を有し、3年間でそれを仕上げるのは大変な努力が必要ですが、多くの学生はそれらを克服して学位を取得しています。連大は毎年入学者が30名を超え、定員23名を大きくオーバーするほどの活発な博士課程となっています。学生の半分がアジア・アフリカを中心とする留学生で国際色豊かな農水産学系の博士課程となっています。最近では中国からの留学生が減少する一方で、東南アジアやアフリカからの留学生が増えています。また、社会人が入学するケースが増加しており、連大では要件を満たせば2年で学位を取得できる制度を作っています。他の特長として日本有数のバイオ企業であるタカラバイオ株式会社と連携大学院を持っており、学生の受け入れ、研究指導や講義などを担って頂き、先端バイオの研究者を育成しています。

連大に着任直後に大学が法人化され、中期計画・中期目標の設定と実施、予算の減額、宮崎大学の離脱、博士

課程の教育の実質化、改組などに対応をしなくてはならないことになりました。中でも宮崎大学の離脱と改組は最もエネルギーを使いました。残った宮崎大学配属学生の問題や文部科学省との交渉はかなり難航しました。文部科学省から改組案は否定的とされ、諦めざるを得ない状況に追い込まれましたが、改定案を改めて出すように言われ、2日間徹夜して提出したものがようやく受理され、現在の生物生産科学専攻、応用生命科学専攻、農水圏資源環境化学専攻の3つの専攻として再スタートとなりました。中でも農水圏資源環境科学専攻の水産学系はそれまで宮崎大学の水産系との連合で成り立っていたので、鹿児島大学の水産学系だけでは連合出来ず、本来の連合農学研究科の趣旨を満たさない状況でした。何とか農と水が融合した農水圏資源環境科学専攻を構築して、その中に水産資源環境科学連合講座を置くことで認可さ

れました。複数の大学が連合した連合農学研究科は多くの課題や問題を抱えており、将来に向けて解決しなくてはならないものが残されています。

研究の方では多くの学生と接しましたが、情熱ある学生に恵まれ、良い成果を上げることが出来ました。連大という特殊な立場でありましたが、農学部から優秀な学生を送って頂き、彼らと共に探求し、面白い研究が出来ました。また、連合農学研究科は施設面で恵まれていたのも幸運でした。

農学部も時代に合った教育体制に改組され、この4月からスタートしますが、連合農学研究科も新体制になります。活気に溢れた世界に輝く農学部、連合農学研究科となることを期待しております。農学部の更なる発展と皆様の益々のご健勝を心よりお祈り申し上げ、挨拶と代えさせていただきます。

寄贈出版物の販売

藤田晋輔あらた同窓会長から下記の3種の出版物が本会に寄贈されました。事務局でこれらの特価で会員に販売します。そして、その売上金は本会会報の発行経費に充当します。

I. 図鑑：「鹿児島大学植物園の樹木たち」

販売特価：1,500円

著者：鹿児島大学「鹿児島大学植物園の樹木たち」

編集委員会代表 藤田晋輔

鹿児島大学の植物園の歴史は古く、鹿児島高等農林学校が開校された1909年に始まりますが、この植物園には多数の南西諸島の樹木が植栽されているのが特徴です。本図鑑には約200種が“実際に生育している姿”をカラー写真で245頁に収録されています。



II. 著書：世界自然遺産・屋久島と屋久杉の秘密（上）、（下）巻

販売特価：上巻700円、下巻700円

著者：藤田晋輔

屋久島は、九州本土最南端の佐多岬から南方約60kmの洋上に浮かぶ島である。屋久島の自然は、海岸から標高が上がるに従って照葉樹林帯を主とする亜熱帯性から高山寒地性に至る多様な植物が海岸から標高2,000m近くまで垂直的分布を示しており、植物学上からも他に例を見ない貴重な島である。著者は、屋久島の生い立ちや屋久島の地勢を加えながら、約300年もの間続いた屋久杉の伐採の歴史に言及し、屋久杉の組織構造と材質の特徴を専門の見地から論じ、森林保護と林業が両立するための屋久島の将来について提言を行っている。



購入をご希望の方は、購入希望の書籍名をあらた同窓会事務局までご連絡ください。代金後払いでお届けします。

講 演 録

『会長 鳥耕作』と TPP（環太平洋経済連携協定）



農業経営経済学コース
農業経営学

秋 山 邦 裕

日本のマンガ・アニメ文化は質量ともに充実している。マンガ・アニメは世界的に有名であり、若者への影響力は計り知れない。近年、「農」や「食」などをテーマにしたマンガ・アニメがブームになっている。内容の紹介は省略するが、『銀の匙』、『もやしもん』、『のうりん』といったマンガ・アニメはテレビ放送が実施されている。また、スロー・フード、スローライフ好きの田舎暮らしをテーマにした『リトル・フォレスト』は橋本愛（NHK朝ドラ「あまちゃん」出演）主演で映画化され、上映された。こうした「農」ブームのおかげもあってか、夏に行われるオープンキャンパスは農学部・共同獣医学部ともに大盛況である。

最近、『鳥耕作の農業論』（光文社新書、2015年8月）という本が出た。昔、「課長 鳥耕作」というサラリーマンを主役にしたマンガが流行った。その後、連載が続き、いま、『会長 鳥耕作』が連載中だ。そのストーリーは、会長が農業という新分野に挑戦する、という内容である。本来なら大企業の「会長」が農業経営事業に参入するというストーリーは喜ぶべきことなのだろうが、大歓迎というわけにはいかない。なぜならば、このマンガはTPP賛成の立場、財界の意向を宣伝する役割を果たしているからだ。

『鳥耕作の農業論』には、「農業は、クリエイティブでカッコイイ仕事だ!」という宣伝文句がつけられている。これは若者や一般にも受けそうな印象を与える。しかしながら、甘い文句のそばには、「日本の農業はおかしいことだらけ」「日本の農業をダメにした〈補助金〉と〈農協〉」、といった財界の意向を受けた厳しい判断が下される。そして、「TPP以後、日本農業の生きる道」の提案として、「合理的農業国オランダに学べ」という。なぜ、オランダなのだろうか？ オランダでは、企業経

営者がコンピューター管理による野菜工場で生産して、海外に輸出している。つまり、オランダを推奨する理由は、植物工場の企業経営そして輸出産業ということらしい。企業によるオランダ型輸出産業への転換という提案は、本当に「TPP以後、日本農業の生きる道」なのだろうか？ 『会長 鳥耕作』のマンガも同様の論調だ。国内・海外視察の様子が具体的に描かれている。そして、日本では「手厚い庇護政策が農業をダメにしている」と結論する。オランダの大学では「先端技術と農業経営」について実践的な教育研究を行い、学生たちは「農業コンサルタント」として活躍しているものが多い、と高く評価し、暗に、日本の大学農学部を批判している。財界人の懇談シーンでは「TPP交渉に反対する中心的な存在は農協ですな」「圧力団体として存在した農協だが今やその力もなくなった」「解体とまではいかななくても縮小の方向に向かうべき・・・」という話がなされる。ソフトな宣伝の影響力は広く、強大だ。なぜ、ここまで農協を批判するのだろうか？ 我が国の総合農協は巨大な経済組織である。信用事業の預貯金残高は93兆円、共済事業の保有契約高は138兆円、その総資産は54兆円に及ぶ。金融資本が狙っているのは農協の金融資産であろう。すでに、農協改革は現在進行中である。

そもそもTPPとは何か？ TPP交渉は異常な秘密主義であり、交渉内容は参加国の国民にも非公開という合意がある。交渉文書は協定発行後4年間秘匿される。交渉内容は21分野に及んでいる。しかしながら、国内のマスコミなどが流す情報は「輸出産業と農業の対立」という単純な構図であり、農業が国際的な貿易を阻害している、という偏見を宣伝している。

TPPの本質は、多国籍企業の意向をアジアで押し通すことにある。これまで、アメリカは日本に対して毎年『年次改革要望書』を提示し、日本政府はそれに従ってきた。その最終仕上げがTPPである。アメリカを拠点とした多国籍企業が狙っているのは、日本の金融資産（農協の預貯金・共済など）、巨大な医療市場（国民皆保険制度の弱体化）などであると指摘する専門家もいる。資本主義は機能不全を起し、産業資本は利潤を生み出せなくなりつつある。資本主義は金融資本による強奪による格差拡大型に変質している。TPPはその権化と見るべきだろう。「国民国家をも解体させる大転換期に我々は立っている」（水野和夫『資本主義の終焉と歴史の危機』集英社新書）、是非、この本を読んで欲しい。

支 部 便 り

宮崎あらた会だより

「平成27年宮崎あらた会を開催」

平成27年宮崎あらた会は、都城市の都城ロイヤルホテルを会場に、平成27年2月14日開催しました。前年の会場設定を、宮崎県の県北地域会員の参加を配慮して高鍋町にて開催したのに続き、今年は県南地域会員の出席を配慮して、都城市在住の余吾和康副会長に会場の設定準備をしてもらいました。

その効果もあって、今まで参加のなかった都城市や近隣の会員で初めて参加した方もあり、昨年、一昨年のあらた会とは参加者の顔ぶれに変化がありました。

あらた会本部からは、林満常任副会長の出席をいただき、さらに余吾氏と同期でもある中村博大あらた会本部

評議委員にも出席していただきました。

出席者は40名で、昭和20年卒業の大先輩から、若手会員は平成12年卒業までの、幅広い年代が集うことが出来ました。

会は、浦壁弘昭氏の司会で進行し、小川佳彦会長の挨拶で始まりました。本部からは林副会長から大学の近況や同窓会の様子などの報告をいただき、中村氏からも学生時代の話も交えながら話題提供していただきました。

溝俣幸雄顧問の乾杯の音頭で懇談が始まると、各テーブルとも、久しぶりに会ったお互いの近況の交換や、初めて会った者同士であっても、同じキャンパスに学んだ者同士の遠慮のない会話が弾んでいました。盛り上がったところではカラオケ装置を使つての歌も飛び出し、あっという間に2時間半ほどの時間が過ぎて行きました。

次回での再会を期して散会しました。

坂本博司記

近畿・兵庫あらた会だより

「平成27年度近畿・兵庫合同総会の概要」

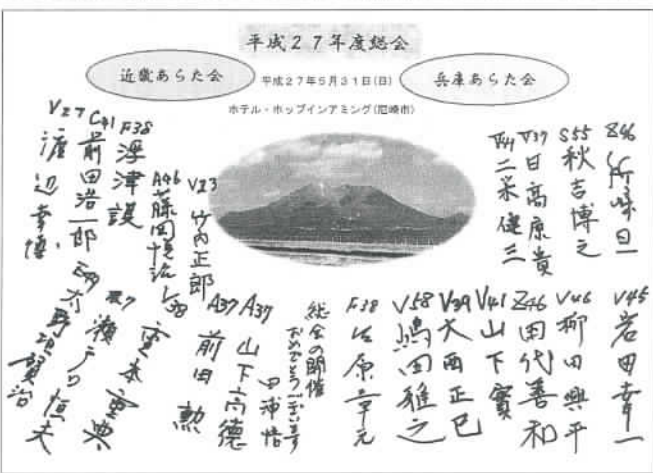
平成27年度の通常総会は、5月31日（日）13時からJR尼崎駅北側のホテル「ホップインアミング」で4年連続して合同総会となりました。

本年度の総会には、鹿児島大学自然科学教育研究支援センター遺伝子実験施設の田浦悟教授（農59卒）にご臨席をいただいた他、重本重典幹事（獣38）が55年ぶりに京都府在住の前田 勲氏（農37）と再会されるなど総勢21名で和やかに行われました。

はじめに、近畿あらた会の内田 昭会長（獣25）が今年も体調不良により欠席されたため浮津 護前会長（林38）と兵庫あらた会の日高康貴会長（獣37）が全ての同窓会は沈滞ムードであり、会員の減少や集まりが悪く将来に不安が残るが、お互いに誘い合つて同窓会を盛り上げていこうと挨拶をされました。

次に、同窓会本部の常任幹事(会計担当)でもある田浦教授から母校や同窓会本部の近況報告をいただきました。

その後、記念撮影の後、13時40分には山下高徳副会長（農37）の乾杯の音頭で祝宴に入り、ビールや近畿あらた会の藤岡悦治常任幹事（農46）が準備された焼酎「薩摩すんくじら」や渡邊幸博氏（獣27）持参の赤ワインなどを酌み交わして歓談し、14時から所崎亘幹事（畜46）を皮切りに出席者全員が闘病体験、体健康管理法、趣味、ボランティア活動など近況をマイク片手に語りました。



会員の高齢化が進む中、出席会員の最高齢である竹内正郎氏（獣23）は87歳とは思えないほどお元気な様子で、健康法について質問が相次ぎました。

最後に渡邊氏の発声で対岳寮第二寮歌、太野垣賢治氏

(工49)の巻頭言で北辰斜めに、田代善和氏(畜46)の発声で高等農林校歌と第四寮歌を全曲とも最後まで合唱し16時30分に祝宴を閉じました。

その後、田浦先生を含め13名が会場に隣接するビル内の居酒屋に移動して2次会に突入し、解散したのは19時頃でした。

なお、来年は5月29日(日)、同会場で合同総会を開催

の予定ですので、多数の出席をお願いする次第です。

末筆ながら、兵庫あらた同窓会山本稔前会長(林22)は5月18日米寿を迎えられ、6月1日に高齢者叙勲として瑞宝双光章を受章されました。この栄誉を心からお慶び申し上げますとともに、更なるご健勝をお祈りいたします。

[兵庫あらた同窓会 柳田興平(獣46)記]

東海あらた会だより

「東海あらた会だより」

恒例となっている東海地域の、第49回あらた同窓会は、霜寒の季節とは思われない暖かな日であった11月29日(日)の正午から名古屋市丸の内二丁目【アイリス愛知】で開催されました。

母校農学部あらた同窓会本部よりも、年末大変ご繁忙の中にも関わらず、平 端樹先生(生物環境学科・地域防災教育研究センター)が、ご臨席下さいました。

定刻には出席の方々も揃い、従前どおりに原田 洋(農学科・昭和36年卒)事務担当幹事が司会を務めて始めました。

議事に先立ち、高橋 剛会長(蚕糸学科・昭和38年卒)の挨拶があり、ご多忙の中をご出席賜った平先生への謝辞に次いで、昨年度の功労者表彰で、当会の亀山 和夫副会長(獣医学科・昭和16年卒)が受彰なされた旨の報告がありました。

なお、高齢化の世の中で、大変な時代になりました。特に教育の場では、高校・大学など厳しくなり、鹿大なども新設の学科が始められるとの事で喜ばしい限りです。

また、東海あらた会も来年度は50周年になります。今後の運営等も十分検討しなければと考えております。等のお話がありました。

議事は、高橋会長が議長となり進められました。

事項の(1)経過及び会計報告。(2)東海あらた会会則の変更について。原田幹事から報告ならびに説明があり、何れも承認された。

(3)次期開催計画については役員会で決めさせて頂く事とされた。

(4)その他。

ア・共同獣医学部設置による、あらた同窓会との関係については、大学本部の動向によって対応を考えたい。

イ・ご都合で欠席された方々からの近況短信を拝読した。

以上の議事が終わり引き続いて、平 端樹先生から「大学および同窓会の現状について。」ご持参下さった、ア. 鹿児島大学農学部2015。イ. あらた同窓会秋季号。ウ. 鹿児島大学同窓会連合会報No.20.のそれぞれ詳細なご説明を頂きました。

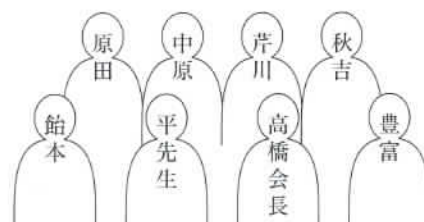
年ごとに充実発展を遂げている母校の様子を拝聴致しました。

次いで、会場内で皆揃っての記念写真を、鉛本 秀夫(獣医学科・昭和40年卒)氏に撮って貰いました。

懇親会は、原田 洋氏、と芹川 隆一(農学科・昭和37年卒)氏による、校歌、第二寮歌、第四寮歌、北辰斜めに、の歌声が流れる中に始まりました。

それぞれ席を巡っての、同期会、学生時代の生活、現在の模様など歓談が賑やかに盛り上がっている内に早予定の時刻となり、中原 一郎(林学科・昭和44年卒)氏の音頭により一本締めで解散しました。

(秋吉 輝夫 記)



第49回東海あらた会

平成27年11月29日(日)

於：名古屋市丸の内2丁目・アイリス愛知

長崎あらた会だより

「長崎あらた会平成27年度例会」

平成27年12月5日、諫早市において長崎あらた会平成27年度例会が開催されました。あらた同窓会本部からは常任副会長の林先生にご臨席いただき、昭和29年卒業の大先輩から平成27年卒業の新人君まで総勢32名の方々の参加の下、総会、講演会、情報交換会が行われました。

総会では、本会会長の山下勝郎氏（昭和44年卒、農学科）のご挨拶後、事務局の織田拓氏（平成2年卒、農学科）から本年度会務・経理報告並びに次年度計画について報告、説明があり、異議なく承認されました。

講演会では、林先生に「大学・同窓会の近況について」ご講演をいただきました。時代の流れに伴う大学のあり方、機構改革等、他地域でのあらた会の開催状況等大変興味深い内容のご講演で、参加者全員熱心に聞き入っておりました。

情報交換会は、本会顧問の吉岡庭二郎氏（昭和34年卒、農学科）の乾

杯のご発声をいただき、始まりました。会は、吉岡氏に作成いただいたCDの校歌、寮歌が流れる中、和やかに、賑やかに時間が流れました。途中では、今回初参加あるは久しぶりの参加の池田辰也氏（昭和63年卒、農学研究科）、石原一広氏（平成3年卒、農学科）、里中利正氏（平成7年卒、農学研究科）、志賀光里氏（平成23年卒、生物資源化学科）、大江佑季氏（平成25年卒、生物生産学専攻）、園田真一郎氏（平成27年卒、生物生産学専攻）から自己紹介をいただき、さらに盛り上がりました。最後は、川瀬大三氏（昭和46年卒、農学科）の音頭で巻頭言、校歌、寮歌を参加者全員で声高らかに合唱し、閉会となりました。（事務局：寺本 健：昭和59年卒、農学科）



熊本あらた会だより

「熊本あらた会総会を開催」

今年で46回となる熊本あらた会総会を、平成27年11月6日午後7時からアークホテル熊本城前で開催いたしました。

議事に先立ち昨年ご逝去された先輩方に、謹んで哀悼の意を表し黙祷を捧げました。総会は、東正隆会長（総合農学科・昭和38年卒）のあいさつから始まり、あらた同窓会常任副会長の林 満氏（蚕糸学科・昭和35年卒）からご来賓のあいさつを賜りました。

提案された平成26年度会務報告及び収支決算、平成27年度会務報告及び収支予算、熊本あらた会会則の一部改正について、宮本事務局長から説明と報告がなされ、異議なく承認されました。

総会の後は、今年熊本あらた会に

入会した5名を含め49名で懇親会が開かれました。懇親会では、母校の懐かしい話や、年齢・業種を超えた新たなつながりに花を咲かせ、これからの熊本に活力をもたらすような、素晴らしい会となりました。会の終わりに当たっては、木村広継先輩（総合農学科・昭和40年卒）のハーモニカの伴奏と内田順喜副会長（獣医学科・昭和41年卒）のリードで北辰斜めを大合唱し、万歳三唱で締めくくりました。

（角崎 智洋 記）



佐賀あらた会だより

「佐賀あらた会だより」

佐賀あらた会では会則に基づき毎年総会を開催しており、平成27年度の総会を7月11日（土）15時より、佐賀市の「グランデはがくれ」で開催しました。

総会には毎年同窓会本部より来賓をお招きしており、今年度は岩井久農学部長にご出席いただきました。

参加者の最高齢は昭和17年卒で90歳を超えています。お元気な大先輩から昨年度佐賀県庁に入庁した初々しい若者まで幅広い年齢層の30名の会員の参加がありました。

議事に先立ち、この一年間にご逝去された先輩お一方に哀悼の意を表し黙祷を捧げました。

総会は、古賀俊光会長（園芸・昭和54年卒。佐賀県生産振興部長）の挨拶に始まり、議題として事務局より提案した

- ・第1号議案：平成26年度活動実績及び決算について
 - ・第2号議案：平成27年度活動計画及び予算(案)について
- について審議、異議なく承認されました。

次いで、平成26年11月23日（農学部開学記念日）に開催された平成26年度あらた同窓会総会において功労者賞を受賞された吉山文蔵先輩（獣医・昭和29年卒）のご披露とご挨拶をいただきました。

参加者からは、吉山先輩が平成6～17年度の12年間に

わたり佐賀あらた会の会長を務められ、同窓会の発展にご尽力されましたことに対し盛大な感謝の拍手が送られました。

その後、岩井久農学部長からのご挨拶と大学の近況を報告いただき、出席した会員は熱心に聞き入っていました。

最後に記念撮影で総会を終了し、引き続き同ホテル内で懇親会に移りました。

懇親会は、和気あいあいの賑やかな雰囲気の中、予定の2時間はあっという間に過ぎ、締めめに恒例の「鹿児島高等農林学校校歌」と「第一寮歌“黒潮岸に”」を全員で合唱して会を閉じました。

多忙な中、佐賀支部の活動のために時間を割いていただきました岩井農学部長に改めて感謝申し上げます。

来年度も多数の会員の出席をお願いするとともにあらた同窓会のますますの発展を祈念する次第です。

〔佐賀あらた同窓会幹事 佐藤智明（農学・平成2卒）〕



総会出席者による記念撮影

クラス会・グループ便り

E45年卒 45年目の同窓会 in鹿児島

E45（農業機械専攻）卒業45年目の同窓会を平成27年7月25日鹿児島市鹿児島東急ホテルで開催しました。参加者は、岡山1、佐賀1、熊本2、鹿児島2、屋久島1、沖縄1名、鹿児島在住の恩師、阿部先生、宮部先生にもご出席を頂き、計10名の参加でした。台風12号の襲来が心配されていましたが、前日に来鹿する人もあって、なんとか全員顔を合わせる事ができました。

当日は、16時に鹿児島中央駅東口集合、久しぶりの再会に不安もありましたが、じわりと昔の面影が浮かび、とても懐かしく感慨深い瞬間でした。

まず鹿児島大学を訪れ、校内を方々散策しました。特に農業工学科（現生物環境工学科）の建物辺りは、まだ昔の風景が宿っていてとても懐かしく、エントランスのソテツの植木の前で、まず記念写真を撮りました。本館



後列 浜川、岩元、秋永、井上、寺尾（清）、浦霧、田浦、花谷
前列 阿部先生、宮部先生

や講堂などの建物は、リニューアルされていて、たいへん綺麗になっていました。学生会館には若い学生達が集い、錦江港祭り？があるとかで浴衣姿の学生もたくさんいました。時の流れも感じた次第です。

宴会は18時から鹿児島東急REIホテル3F東の間でした。まず一昨々年亡くなった同朋、齊藤勲三君に哀悼の黙

袴を捧げ、発起人寺尾君（岡山）の挨拶と秋永君（沖縄）の乾杯で開会しました。冷静なうちに集合写真を撮り、暫く歓談した後、それぞれ卒業後の経過や近況報告、阿部先生、宮部先生からも懐かしく興味深い思い出話など貴重なお話を戴きました。

2時間余の時間があっという間に過ぎ去り閉会となりました。大変楽しく懐かしく、旧交を温めることができました。閉会後も、なごりを惜しむべく全員で駅前の居酒屋に入り、更に話が盛り上がった次第です。

これからも健康に気を付け、お互い励まし合い、支え合えるよう頑張っていきたいと思えます。

（花谷良助 記）

佐藤宗治教授退職記念育珍会の開催

2015年3月、佐藤宗治教授が退職されました。退職を記念して植物育種学研究室の同窓会である育珍会を開催しました。先生は昭和57年に赴任され、この間189名の同窓が学びました。今回、61名が出席しました。会の冒頭、今回出席ができなかった卒業生から送られてきたビデオを上映しました。これには赴任されて2、3年の若かりし先生がバットを振るソフトボール大会、研究室での鍋を囲んだコンパ風景が映し出されました。卒業後、久しぶりに合うものが多く、旧交を温める機会となりました。

（S59卒田浦）



C23の同期会

関門 海峡を渡る

平成26年10月26日、C23の同期会も林兄の故郷長州下関に上陸、ところも「火の山」「みもすそ川」いかにも由緒ありげなところ今宵の宿は海峡の真上に建つ「海峡ビュー」ものせき。

長州は下関は人も知る歴史の町、そして「フク」をはじめ美味しい海産物の町、ホテルからのロケーションは「絶景かな」の一語に尽きる。俯瞰すればせわしげに行きかう大小の出船入り船、仰ぎ見れば海上60メートルの関門大橋が海峡を大きくまたぐ姿に驚かされる。

今回のメンバーは九州勢は鹿児島からは長老豊鎌の長倉兄、八代からは森兄、大分からは津野兄、久留米から

は小生、中国勢は倉敷から鮫島夫妻、地元は世話人林夫妻、計8人の大盛會となる。

宴会はうまい地酒と下関名物の「フクサシ」をはじめ海の幸のかずかずにはすっかり酔いしれて、恒例となった校歌、寮歌、同期の桜の大合唱で盛り上がり、御前様まで思い出話に花が咲いた。

翌朝のお目覚めは海峡を通う船舶の心地よいエンジン音が子守り歌。窓を開け眼下を見下ろせば左の海は源平合戦の壇ノ浦・右の島は宮本武蔵と佐々木小次郎の決戦の「巖流島」そしてこの「火の山」付近はかの攘夷の勅命を正直に守り馬関戦争で四カ国の連合艦隊から集中砲丸を浴びた地でもある。まさに時代を動かした歴史の町である。想いを850年の大昔にタイムスリップしてみよう。この狭い海峡に平家500艘、源氏850艘もの軍船が入り乱れ紅白の長旗をなびかせ舷舷相磨す壮絶な海戦を演じたのである。平家にあらずんば人にあらずと豪語し栄耀栄華を極めた平家もここに亡ぶ。栄枯盛衰世の習いとは言え討たれし平家の公達や女官や哀れ、なかでも二位の尼が幼帝安徳天皇を抱いて「波の下にも都がさぶろうぞ」の伝説には涙を禁じえない。波間に浮き沈むする人々を助けて飲ませた「いっ杯の水」の泉、ねんごろに葬られた「七盛塚」、圧巻は安徳天皇を祭った赤間神宮の先天祭は今も脈脈と続いている。この地の人々の心やさしさが偲ばれる旅だった。

帰りは関門大橋の大パノラマをバックに記念撮影、そして「フク」の袋セリで有名な唐戸市場まで林夫妻の案内で買い物。次会は福岡が当番ということで別れを惜しみながら解散。

最後に下関が生んだ詩人中原 雅夫氏の「詩」を紹介しよう。

関門海峡

潮はながれる 潮のながれるはやさで 時がながれる
 潮が渦巻くとき 歴史が回転する 潮が西へながれた時
 平家が滅び
 潮が東へながれた時 明治維新の のろしが上がった
 時のながれに架けた 橋から 歴史の展開を 見守ろう

この作詩者中原氏は母校林科昭和20年得業の大先輩で氏は下関市の図書館長などを歴任されたかたで詩人 歌人 郷土史家です（林兄作成学習資料より）

隠塚克己 記



米寿会

C23の同期会も熊本の「城見櫓」から始まり今回でちょうど10回目の節目に当たりお互いに米寿まで年を重ね今回をもって最終回とすることとなる。時は平成27年5月10日（日）、ところは樟樹の新緑に映える矢部川のほとり船小屋温泉郷の「樋口軒」にて日帰りの会。遠方の八代の森兄は息子さんの車で送迎、下関の林兄は快速で、福岡の西山兄は奥様同伴で、久留米からは私夫婦の六人、常連の大分の津野兄は叙勲のため欠席。

対岸の「中の島公園」にはクスノキの巨木群が鬱蒼と茂り島に渡るガタガタ橋は大水のときは引き上げられ、その周辺は夏場には水泳場となり子供達の喚声につつまれるという。まことに詩情豊かな爽やかな土地柄である。まず、会の始めにすでに鬼籍に入られた先生方と学友に対し御冥福の黙祷を捧げる。会は西山兄の久しぶりの参加で盛り上がり恒例の歌もこれを最後とばかり蛮声をあげての大合唱。想えば、熊本に発したこの会も菜の花の原鶴温泉に次いで、万朶の桜が咲き誇る舞鶴城に酔い、湯布岳の残照に輝く双耳峰を仰ぎつつ「あらた百」を酌み交わし、秋雨煙る三大急流の球磨川べりの宿で45度の「極楽」に酔いつぶれ、桜島を仰ぐ超絶景の与次郎が浜の宿。母校を尋ね若かりし70年の昔に回帰する。蟹江先生の胸像に手を合わせ焼酎学教室も見学、次は日本一の名湯を誇る別府の湯につかり、ドンコ舟行きかう白秋の里柳川は「カンボの宿」。そしてついに関門海峡をまたぎ源平合戦の名勝地「壇ノ浦」を見下ろす「火の山」のホテル。行きかう大型船舶を眼下に臨み、見上げれば関門大橋の大パノラマ、最後は樟樹の映える船小屋、よくも10回も続けたものだった。

参加者延べ78人（同伴者を含む）東京からは松下兄が遠路はるばると二回も…。

焼酎を酌み交わし、語り明かした想いで話、蛮声を張り上げて「寮歌」「校歌」「同期の桜」を歌ったことなどいまは走馬灯のように駆け巡り生涯忘れられぬ思い出となりました。

この会は一応終わったがお互いの友情の絆は永遠に消えません。また機会を見つけては逢いたいものです。

この会には毎回毎回林兄からの膨大な学習資料とカラー写真のコピーを寄贈してもらい貴重な宝物となりました。また森兄からは毎回カメラマンをつとめてもらい立派なアルバムができました。森林組合の二人には感謝感謝です。

名残は尽きないが最後に「惜別の唄」を合唱し、母校の更なる発展とみんなの益々の長寿を祈念して西山兄の音頭で万歳を三唱して閉会した。

そして、はるか明治の昔より連綿たる薩南の雄 旧制鹿児島高農 農芸化学科並びにあらた同窓会に感佩 併せて鹿児島大学農学部よ永遠成れ！今こそ開学の初志 南方共同開発の先鋒を期し ご繁栄を祈ります。

最終回幹事 隠塚克己 記

果樹園芸学研究室創立45周年記念同窓会を開催

昨年の5月23日、鹿児島市街を間近に見下ろす某ホテルで果樹園芸学研究室の同窓会を開催しました。研究室の同窓会は5年ごとに開催しています。

今回は、研究室第1期生でもあり、3月に農学部学部長を最後に御退職された富永茂人先生の記念祝賀会を同日に開催しました。

北は北海道から南は台湾まで、岩堀修一先生、小崎格先生をはじめ、同窓生の約三分の一にあたる105名、記念品参加者まで入れると約二分の一にあたる151名が参加されました。

会は第1部が「富永茂人先生退職記念祝賀会」と第2部が「記念同窓会」です。



祝賀会では、富永先生が「私と果樹園芸学研究室」と題して、学生時代から農学部長に至るまでの45年間を思い出の写真などを交えて語られました。同窓生の方々も自分たちの写真がスクリーンに写るたびに、先生と過ごした（時には格闘？）日々を懐かしく振り返っていました。富永先生、お疲れ様でした。そして本当にありがとうございました。

第2部記念同窓会は、はじめに、研究室の初代教授である大畑徳輔先生や亡くなられた方々に黙とうをささげました。

乾杯の前に、山本雅史先生による研究室の現況報告と御退職後も果樹園芸の発展に尽力されている岩堀先生、小崎先生にあいさつをいただきました。また、岩堀先生におかれては、一昨年の2014年に国際園芸学会「ISHSフェロー」賞を受賞されたことが報告されました。日本人では今回の岩堀先生が初の受賞ということもあり、同窓生一同でこの名誉を喜び合いました。岩堀先生、おめでとございました。

立田先輩の発声による乾杯が始まると、久しぶりに会う先生方や先輩、後輩、仲間たちと焼酎を注いだり、注がれたり、食事もそこそこ、にぎやかで盛大な会になりました。恒例の学年ごとスピーチも時間が足りず、あつという間でした。

最後は卒業したばかり、平成27年卒の園田君が発声。「みなさん、50周年でまた会いましょう。万歳！ばんざい！バンザイ！」



学 生 便 り



4年間を振り返って

生物生産学科
農業経営経済学講座
農業経営学研究室

井立田 裕也

鹿児島大学での4年間は、いろんなことを経験し大きく成長する期間となりました。サークル活動では、「農トレ」に所属し、霧島市溝辺町にある棚田で合鴨農法を体験しました。合鴨農法での米作りは初めての体験で、先輩方との交流で視野も広がり、地元の農家の方々とも交流して、とても勉強になりました。

3年生の夏休みには、海外ボランティアにも参加することができました。ネパールの小学校を訪問し、文房具を寄付したり、折り紙やけん玉などの日本文化を教える教室を行ったりしました。ネパールの子供たちの笑顔がとても印象に残っています。海外での体験は、すべてが新鮮でした。ネパールの人々は朝夕2食が一般的で、ダルバードという料理を毎日食べます。また、小学生から英語を勉強し、ネパール語、民族の言葉、英語が話せます。身分の違いによる貧困格差も存在し、身分の低い地域の子供達の中には十分に教育を受けられない子供も多く存在することを知りました。今後も継続してネパールの子供達を支援していきたいと考えています。

農業経営経済学講座（農経）では、農村調査実習があり、実際に農村に足を運んで、そこで農業を営んでいる農家さんに直接お話を聞く機会をいただきました。現場の生の声を聞く機会は私にとって貴重な体験となりました。また、泊まり込みでの実習だったため、同級生との仲も深まりました。

農経の特徴として、プレゼンをする機会が多く与えられました。聴衆の数は様々ですが、自分の意見や考えを伝えることの大切さと難しさを感じました。これから社会で活躍していく上で、社会に貢献するアイデアを考え提案するプレゼン能力は必ず必要になります。農経で学んだことを生かして、社会に新しい価値を提供できる自分になれるよう努力していきたいです。



農学部卒業にあたり

生物資源化学科
食糧生産化学講座
青果保蔵学及び遺伝子制御学研究室

山田 義博

私が農学部に入学したのは6年前になるが、漠然と大手食品系企業に就職できれば格好良さそうだなと思い生物資源化学科に進学した。これといった目標もなく2年生になった頃、「農トレ」というサークルの存在を知り少し覗いてみることにした。そこで出会った先輩から農学部が開催する海外研修があるということを知り、もうすでに説明会も終わっていたのだがギリギリ間に合いミャンマーに行けることになった。現地では主にシャン州のマンダレーというところに滞在したのだが、いわゆる発展途上地域で蛇口から出る水は赤く濁っており、また農業を視察した際に斜めに傾いた畑に野菜が植えられていたのを覚えている。現地で教育支援、農業支援を行われている日本人の方に引率してもらっての研修であったが、現地の言葉を巧みに使う姿に刺激を受けた。

帰国後1年が過ぎた頃、別の海外研修（中国の雲南農業大学との交流プログラム）があることを知り参加することにしたのだが、中国人学生と交流することができ大いに刺激を受けた。帰国後、中国に興味をもち、中国語を学びたいというのもあり2年間留学することにした。大学に在籍したのだが、現地では就職競争が激しいため学生は勉強熱心で（もちろん熱心ではない学生もいるが）、ここでも大変刺激を受けた。

振り返ると、少しだけ自分の行動範囲から飛び出してみたことで多くの先生方や学生らとの出会いがあり様々な情報や新しい選択肢を私に与えてくれた。4月からは入学した頃に思い描いていたものとは異なり、大学院で農業経済学を専攻する予定だ。最後に多くの機会を提供していただいた大学と農学部また先生方に感謝したい。伝統ある鹿大農学部を卒業できることを嬉しく思うと同時に、少しでも日本の農業に貢献できるようこれからも研究に励むつもりである。



大学生活を振り返って

生物環境学科
農地工学研究室

野中 夏希

卒業まであと2ヶ月を切った今振り返ってみると、さまざまな体験をした4年間でした。入学する前に想像していた以上の充実感を得ることが出来ました。授業や卒業研究などはもちろん、サークル活動やアルバイトなど、それぞれ違った面で、自分を成長させることができ、恵まれた大学生活だったと感じます。

特に2年生のときにミャンマーで行った国際農業体験講座では、農業に関しての国際協力というものについて考える機会になりました。先進国がよかれと思ひ、途上国にむけて行っている慈善活動や寄付は、相手にとってはありがたい迷惑な場合もあるという話を伺い、必要な場所に必要なものという前提がないと、何も生まれないことを学びました。「これをすると、相手は嬉しいだろう」という決めつけから行動を起こすのではなく、相手の目線に立って物事を考えることは、これからの社会生活の中で、非常に大切なことだと思います。

また2、3年生のときに参加した棚田ボランティア活動では、農家の方々と一緒に田植えや稲刈りをさせていただきました。農学部に入學するまで農業を体験したことが無く、農業の大変さ、食のありがたみについて改めて実感することが出来ました。同時に、晴れの日も雨の日も、毎日作物を育てている農家の方々に、尊敬の念を抱くようになりました。

春からはこれらの経験から、農家の方々を支えたり、他国の農業についてもっと学んだりしたいと思ひ、農業土木職を専門とした仕事につくことになりました。大学生活でもそうだったように、努力を続け色々な困難を乗り越え、さらに成長していきたいです。今まで、お互い支えあってきた友達、授業や指導をしてくださった先生方、支えてくれた両親への感謝の気持ちを忘れず、立派な社会人になりたいと思ひます。



6年間を振り返って

獣医学科
臨床獣医学講座
獣医繁殖学分野

久々宮 萌果

6年間様々なことがあった。そのことについて振り返りたいと思う。

1～3年生の時の大きな思い出はサークル活動だ。大学に入學する前まで先輩後輩のつながりが強い部活等の経験がなかったが、大学のサークルで頼りになる優しい先輩、慕ってくれる可愛い後輩と出会うことができ、今でも会った時には楽しく話ができるような関係が築け、サークルに入ったからこそ得ることができた人とのつながりにとても感謝している。また、3年生からは部長という立場でサークルに関わり、人生初のリーダーシップをとらないといけない立場に非常にとまどいを覚えながらも、周りの人々の助けのおかげで困難を乗り越えることができた。

4～6年生になり、サークルを引退し研究室に所属し始めてからはガラッと生活が変わった。大好きな牛や一番興味があった繁殖分野と関わることができる繁殖学研究室に入らせていただき、素晴らしい先生方のご指導のもと、繁殖学研究室であったからこそ学べたこと、体験できたことがたくさんあり、とてもとても貴重な時間となった。また楽しく優しい先輩方や研究室のメンバーと毎日を過ごすことができ、つらいと思うことがあっても頑張ることができた。研究室旅行で富士山に登ったり、フルマラソンを走ったり、皆でいろいろなことに挑戦できて、とても充実した6年間に非常に満足している。

私はこの6年間でたくさんの人の助けがあり、一人であれば挑戦さえしなかったであろうことに挑戦し、時には失敗しながらも大切な経験を積むことができ、その中で人と人が助け合うことが最も大切であるということ学んだ。この6年間での経験を無駄にすることなく、これからは周りに助けられるだけでなく周りの多くの人を助け、鼓舞していけるような人間になりたいと思う。

恩師のお慶び並びに同窓の訃報

先生の退職・新任・昇任

【農学部】

【定年退職】

河野 澄夫 平成28年3月31日付
(生物環境学科 環境システム学講座 教授)

【新任】

M. C. M Vestergaard 平成27年4月1日付
国際食料資源学特別コース 准教授

志水 勝好 平成27年6月1日付
生物生産学科 作物生産学講座 教授

奥山洋一郎 平成27年7月1日付
生物環境学科 森林管理学講座 助教

鶴丸 博人 平成27年11月1日付
生物資源化学学科 生命機能化学講座 助教

牧野 耕輔 平成27年12月1日付
附属演習林 特任講師

【昇任】

池永 誠 平成27年4月1日付
(生物資源化学学科 食糧生産化学講座 准教授)

山本 雅史 平成27年4月1日付
(生物生産学科 園芸生産学講座 教授)

豊 智行 平成27年4月1日付
(生物生産学科 農業経営経済学講座 教授)

石橋松二郎 平成27年4月1日付
(生物資源化学学科 生命機能化学講座 教授)

枚田 邦宏 平成27年4月1日付
(生物環境学科 森林管理学講座 教授)

宮田 健 平成27年4月1日付
(生物資源化学学科 食品機能化学講座 准教授)

吉崎由美子 平成27年4月1日付
(附属焼酎・発酵学教育研究センター 准教授)

三好 和睦 平成27年5月1日付
(生物生産学科 家畜生産学講座 教授)

大島 一郎 平成27年6月1日付
(附属農場 准教授)

井尻 大地 平成27年6月1日付
(生物資源化学学科 食品機能化学講座 准教授)

【共同獣医学部】

【定年退職】

望月 雅美 平成28年3月31日付
(獣医学科 病態予防獣医学講座 教授)

出口栄三郎 平成28年3月31日付
(獣医学科 附属越境性動物疾病制御研究センター 教授)

【辞職】

高木 光博 平成27年7月31日付
(獣医学科 臨床獣医学講座 准教授)

川口 博明 平成27年7月31日付
(獣医学科 病態予防獣医学講座 准教授)

徳永 暁 平成27年8月31日付
(獣医学科 附属動物病院 特任助教)

【新任】

石川 真悟 平成27年4月1日付
獣医学科 臨床獣医学講座 助教

高橋 雅 平成27年5月1日付
獣医学科 臨床獣医学講座 助教

浅野 淳 平成27年9月1日付
獣医学科 基礎獣医学講座 教授

十川 英 平成27年10月1日付
附属動物病院 特任助教

畠添 孝 平成28年2月1日付
獣医学科 臨床獣医学講座 准教授

畑井 仁 平成28年3月1日付
獣医学科 病態予防獣医学講座 准教授

【連合農学研究科】

【定年退職】

杉元 康志 平成28年3月31日付
(連合農学研究科 先端応用生命科学 教授)

物故者名簿

謹んで哀悼の意を表します

故人氏名	科・卒年	死亡年月日	ご遺族の住所およびご遺族名		
尾 添 茂	A.S. 16	H. 23. 8	鳥根県出雲市松寄下町1855	夫人	千歳
江 見 徹	A.S. 19	H. 27. 5. 14	岡山県津山市林田218-14	子息	
吉田 源三郎	A.S. 20	H. 26. 6. 19	大阪府箕面市箕面4-6-1	夫人	美智子
尾 崎 八 郎	A.S. 23	H. 27. 9.	鳥取県倉吉市西仲町2635		
川 上 泰 親	A.S. 23	H. 27. 4.			
月 川 雅 夫	A.S. 23	H. 25. 12.	長崎県諫早市天満町41-23		
山 口 運	A.S. 23	H. 26. 10.			
井 上 平	A.S. 25	H. 26. 10.	福岡県久留米市江戸屋敷1-5-40	夫人	明子
轟 木 昭 俊	A.S. 25	H. 28. 2. 10	千葉県市川市塩浜4-2-36-503		

故人氏名	科・卒年	死亡年月日	ご遺族の住所およびご遺族名	
赤石 競	A.S. 28	H. 26. 10. 2	滋賀県大津市逢坂 2-8-14	夫人 アサ子
寺岡 次豊	A.S. 28	H. 26. 7. 20	長崎県佐世保市原分町397	令嬢
松山 毅	A.S. 30	H. 26. 4. 29	熊本市北区龍田陳内3-6-54	夫人 伸子
高田 一誠	A.S. 31	H. 26. 8. 12	神奈川県横浜市緑区霧が丘1-3-13	夫人 蓉子
宮園 洋人	A.S. 31	H. 25. 1. 1.	鹿児島市永吉2-37-15	令嬢
渡邊 静雄	A.S. 33	H. 25. 4. 18	大分市萩原1-17-7	夫人 恭子
前田 薫	A.S. 34	H. 24. 7. 1	鹿児島県大島郡泊町和泊713-1	夫人
保永 強	A.S. 34	H. 27. 3. 9	和歌山県田辺市神子浜1-12-2	夫人 好美
南田 一郎	A.S. 35		鹿児島県日置市伊集院町猪鹿倉569-25	
伊藤 芳三郎	A.S. 36	H. 27. 1.	鹿児島市西坂元町48-12	令嬢
中河原 一布	A.S. 60	H. 26. 4. 23	熊本市南区田井島1-3-27-503	夫人
泥谷 藤美	F.S. 16	H. 26. 10. 14	大分県大分市錦町3-4-42	夫人
坂梨 壽恵夫	F.S. 17	H. 25. 1.	熊本県阿蘇市内牧1153-1	令嬢
田中 行春	F.S. 22	H. 26. 4. 29	鹿児島市西陵3-28-10	令嬢 池田昌子
山下 清	F.S. 22	H. 26. 8. 27	熊本県菊池郡菊陽町武蔵ヶ丘1-6-22	夫人 和代
東 辰吉	F.S. 23	H. 26. 6. 2	東京都江東区東陽4-7-17-1201	令嬢 川本智子
今村 博	F.S. 24	H. 27. 2. 3	福岡県久留米市安武町住吉1116-88	夫人 瑞子
春田 穰	F.S. 39	H. 26. 3. 20	鹿児島市鴨池新町25-5-201	夫人
東家 勝徳	F.S. 43	H. 26. 8. 6	熊本市南城区南町千町2688	夫人 洋子
石川 光弘	F.S. 44	H. 26. 12. 22	長崎市ダイヤランド1-31-20	夫人
吉松 弘行	F.S. 45	H. 27. 2. 18	茨城県土浦市乙戸南1-4-25	夫人
栗原 英雄	S.S. 13	H. 27. 3. 29	熊本県鹿本郡植木町色出247-2	子息
岩佐 正則	S.S. 23	H. 25. 2	長野県松本市渚3-1-3	令嬢
藤川 一雄	S.S. 24	H. 27. 2. 10	兵庫県明石市太寺4-4-60	令嬢 上村悦子
久井 義人	S.S. 30	H. 27. 1. 29	鹿児島市清水町28-20	夫人 朗子
栗畑 義恭	S.S. 37		宮崎県都城市郡元5-2937-11	夫人
種子田 種雄	C.S. 13	H. 27. 6. 21	鹿児島市西伊敷4-51-2	令嬢 永田苑子
高木 睦夫	C.S. 16	H. 27. 2. 19	熊本市東区榎町16-139	
今古 賀 幸	C.S. 18	H. 27. 11. 30	福岡県筑後市久富597-7	夫人
廣田 雅彦	C.S. 18	H. 25. 8.	福岡県遠賀郡遠賀町尾崎984	子息
矢野 文雄	C.S. 20	H. 26. 10. 6	埼玉県所沢市上安松976-72	夫人 ヒサ
中園 雅好	C.S. 22	H. 17. 3. 26	鹿児島市池之上町16-19	夫人
小原 秀雄	C.S. 23	H. 24. 9. 28	鹿児島県鹿屋市下祓川町1306	夫人
松田 竹朝	C.S. 23	H. 25. 4. 15	兵庫県川西市大和東2-5-4	夫人
山角 大三	C.S. 29	H. 27. 2.	鹿児島市西陵8-29-2	子息
当山 清善	C.S. 33	H. 26. 1. 1.	沖縄県那覇市首里崎山町1-84-6	夫人
山口 省吾	V.S. 17	H. 27. 2. 19	鹿児島県薩摩川内市入来町浦之名195	子息 三郎氏
小山 富美雄	V.S. 19	H. 24. 11. 11	熊本市北区楠5-16-10	夫人 和美
上妻 良夫	V.S. 19	H. 27. 8. 21	鹿児島県始良市平松6328-1	夫人 信子
西 勉	V.S. 22	H. 26. 9. 12	佐賀県鳥栖市原古賀町353-7	令嬢 近藤和子
肥後 不二夫	V.S. 22	H. 26. 2. 1	宮崎県小松台南町15-2	
金久 武晴	V.S. 22	H. 27. 3. 13	兵庫県神戸市北区花山台17-29	夫人 美佐子
松元 質	V.S. 23	H. 27. 1. 13	鹿児島県鹿屋市西原2-23-23	夫人 肇子
鈴木 良夫	V.S. 25	H. 22. 1. 30	埼玉県さいたま市大宮区三橋1-356-4	
東條 馨	V.S. 26	H. 26. 10. 11	鹿児島県伊佐市大口里2924-14	夫人
鮫島 都郷	V.S. 29	H. 25	東京都あきる野市野辺1108-1	
東 昌宏	V.S. 33	H. 26. 3. 23	鹿児島市玉里団地2-59-3	
山田 一郎	V.S. 36	H. 26. 8. 8	鹿児島県奄美市笠利町中金久194	夫人
宮川 俊一	V.S. 38	H. 26. 10. 5	埼玉県入間市高倉5-5-16	夫人
石踊 孝三郎	V.S. 42	H. 26. 1. 1	鹿児島県始良市平松4328-2	
赤松 基次	V.H. 11	H. 26. 7. 14	大阪府豊中市緑丘1-23-13	
南野 正樹	V.H. 23	H. 26. 11. 1	大阪府松原市天美北6-442-1	子息 恵一
野村 克吉	G.S. 39	H. 26. 8. 30	鹿児島県霧島市国分中央1-8-23	夫人 ミツ
山浦 直	E.S. 46	H. 26. 3. 22	福岡県大野城市下大利4-1-5	夫人
藤井 誠三郎	E.S. 48	H. 26. 9. 17	奈良県磯城郡田原本町藏堂561-2	夫人 良子

本部便り

I. 運営の健全化事業の経過報告

あらた同窓会報（時報）は、百有余年にわたる発刊の歴史を有し、同窓生に馴染、親しまれると同時に同窓の絆の役割を担ってきました。しかし、平成の一時期に事業費の節減等の関係から「直近の5年間に会費納付の実績がない者には会報を頒布しない」とする制約が設けられました。

その結果、会報の頒布先は「直近の5年間に会費納付の実績を有する者」、「80歳以上の会員」、「終身会員」、「賛助会員」及び「学生会員」となりました。

一方、上記の制限措置が近年における会費納付者数の漸減現象の一因ではなかろうかとの指摘があり、この件に関して幹事会で協議した結果、会報頒布の条件を「会費の納付実績の有無を問わない」と変更することになりました。その趣旨は予算的に可能な範囲で会報頒布の範囲を徐々に拡大して、数年後には「全員参加型の同窓会に再生」とすると同時に「運営の健全化」を図るというものであります。

具体的には、平成25年3月発行の会報は、頒布制限を一部緩和して、昭和45年から50年にわたる6年間の卒業生全員を頒布対象者に追加すると同時に、その会報に会費納付の要請文を掲載しました。この試行によって会費納付者数に僅かな回復傾向が認められました。

そこで、平成26年3月発行の会報は、頒布対象者をさらに拡大して、昭和40年代及び50年代の卒業生全員を追加しました。これに伴う事業費（増刷経費並びに輸送経費等）の増額に関しては、その会報に「本会の会費収入の低減と当面の対策」と題した協力要請文を掲載して、①会員に対して年会費納付を訴え、②会費免除の高齢者の会員、終身会員及び旧賛助会員にはこの事業経費の一部に充当する「会報賛助金」への浄財を要請しました。

その結果、会費納付者数及び会費収入は大きく改善され、会報協賛金にも多額の浄財が寄せられ、本事業の継続に一応の目的が立ちました。

平成27年3月発行の会報は、これまでの経験を踏まえて平成9年以前の卒業生全員を頒布対象者としました。その結果、会員からの手紙や電話等による各種連絡が顕著に増加して参り、それらの内容は、一連の処置によって同窓意識および絆が強まりつつあることを予感させるものであります。

平成28年3月発行の今回の会報は、連絡先が確認されている約1万名の全会員に頒布範囲を拡大することとしました。本部は、この事業によって新しい時代の「あら

た同窓の絆」が構築され、「あらたの伝統」が次世代へ継承されると確信して取り組んでいます。

新しい時代の同窓会の構築を目指して今後も事業を進めて参りますが、いまだ大半の会員は年会費未納であります。今後の健全運営には、会費納付率の向上と会費収入の改善が喫緊の課題であることを会員に訴え、改善への協力を要請する次第です。

II. 事業及び会計に関する報告

1. 総会

平成27年度総会は、平成27年11月23日、15:00~19:00、鹿児島市上荒田町のジェイドガーデンパレスにおいて開催されました。

1) 講演会 (15:00~16:00)

恒例の講演会は、鹿児島大学農学部の秋山邦裕教授による「『会長 島耕作』とTPP」の講話でありました。（講演要旨は本誌8頁参照）

2) 総会 (16:00~17:00)

池端裕昭副会長並びに岩井久学部長の挨拶に引き続き、堀切俊幸氏（農39）が議長に選出されました。そして、堀切議長のもとで下記の議案について事務局の趣旨説明があり、審議の結果、いずれの議案も異議なく承認されました。

承認議案は以下の通りです。

(1) 平成26年度の事業報告書、一般会計、名簿特別会計および功労者表彰特別会計の決算書並びに監査報告書

(2) 平成27年度の事業計画書、一般会計予算書、名簿特別会計予算書および功労者表彰特別会計予算書

(3) 役員を選任

3) 懇親会 (17:00~19:00)

和やかな雰囲気の中で懇親が図られ、校歌と万歳で閉じました。

2. 評議員会

平成27年度評議員会は、11月9日、17:00から、あらた記念会館で開催されました。

藤田晋輔会長並びに岩井久学部長の挨拶に引き続き、会長が議長をつとめ、総会に付議する下記の議案等について審議が行われました。

審議では、最初に平成26年度の事業報告書をはじめ、一般会計決算書、名簿特別会計決算書および功労者表彰特別会計決算書について事務局の説明があり、続いて監事から会計監査報告書の説明の後、一括して質疑応答が

あり、いずれの議案も承認されました。

つぎに、平成27年度の事業計画書、一般会計予算書、名簿特別会計予算書、および功労者表彰特別会計予算書について事務局の説明があり、審議では一般会計予算書の会費収入について質疑応答が交わされ、その中で事務局から今年度は会費納付の実績の有無を問わず、会報を全員に頒布して本会の運営状況を説明し、会費収入の改善を図る予定である旨の説明があり、いずれの議案も原案通り承認されました。

さらに、役員を選任について事務局の説明がなされ、原案通り承認されました。

3. 常任幹事会及び幹事会

平成26年度の常任幹事会及び幹事会は合わせて4回開催され、会報の編集及び発行、評議員会に付議する議案書の作成、講演会の企画・実施、会費収入の改善策、並びにホームページの管理等について協議が行われました。

平成27年度も随時開催して、本会の事業の企画・実施等について協議を行います。

4. 会計監査

平成26年度の会計監査は、平成27年10月23日に3名の監事によって実施され、本会の事業及び会計事務が適切に執行されている旨の監査報告書が会長宛てに提出されました。平成27年度の会計監査は平成28年10月に実施を予定しています。

5. 会報の発行

あらた同窓会報は、平成27年3月25日に春季会報、11月23日に秋季会報を発行しました。春季会報は、会費納付の実績の有無に拘らず、平成9年以前の卒業生全員に頒布しました。秋季会報は、学生会員を対象としていますが、一般会員には地域支部総会時に出席者に頒布しました。

平成28年3月発行の春季会報は所在が判明している全会員に頒布します。

6. 講演会

本会と農学部共催の恒例の「学生向け講演会」は、平成27年7月29日、13:30～共通棟1号教室において実施しました。講師に平成53年本学農学研究科修了の藤崎一幸氏を迎え、講話「食品会社の採用と商品開発」に70数名の学生の参加がありました。

11月23日の本部総会時に行われる恒例の講演会は、秋山邦裕農学部教授を講師に迎え、演題「『会長 島耕作』とTPP」に60名ほどの聴講者がありました。(講演要旨は本誌8ページに掲載)

7. 地域支部会員との交流

本会は、地域支部から支部総会等に本部役員の派遣を要請された場合、本部役員または現賛助会員を派遣し、会員との交流を図ります。前年度の派遣先は、東海あらた会、近畿・兵庫あらた会、佐賀あらた会、熊本あらた会、宮崎あらた会、鹿児島あらた会、鹿児島市役所支部でした。

8. 鹿児島大学同窓会連合会の事業

1) あらた同窓会は、鹿児島大学同窓会連合会の一員として、他学部同窓会とともに同窓会活動を行っています。連合会では会報を年に2回発行していますが、本会ではそれらの同窓会連合会報は地域支部を通じて会員に頒布しております。頒布を希望される方はその旨 本部事務局までご連絡ください。

2) 鹿児島大学には、1981年に各学部の同窓生有志が集って始めたゴルフコンペがあり、毎年1回、各学部の有志で構成された運営委員会が運営に当たっています。現在、この運営に同窓会連合会も関与して毎年200名を超す参加者を集め、学部対抗形式で楽しくプレイしています。このゴルフ大会の開催日は、毎年4月の第3日曜日が予定されています。あらた同窓会では参加者を募っていますので、参加希望者は同窓会事務局までご連絡ください。

なお、今年の第35回大会は、4月17日に蒲生カントリークラブで開催の予定です。

3) 鹿児島大学は、地域活性化の中核的拠点として、学生のグローバル教育の推進や地域に貢献する人材の育成など教育研究支援の強化に取り組むために『鹿大「進取の精神」支援基金』を創設し、ただ今卒業生の皆さんに浄財をお願いしています。

同窓会連合会は、基金の趣旨に賛同し、同窓生に支援の呼びかけを行っています。

基金に関する問い合わせ先：鹿児島大学学長戦略室、
TEL：099-285-3101

平成27年 会報賛助金の協賛者ご芳名 84名

学科卒年	氏名	学科卒年	氏名
旧賛助	大林 晃	FS31	岩本 六夫
AS17	白水 久	FS32	後迫 巖
AS20	井上 二桜	FS32	上野 達木
AS22	國武 正彦	FS33	渡邊 惟平
AS22	中村 秀徹	FS36	後藤 幸夫
AS23	赤崎 義則	FS42	後藤 俊夫
AS23	赤星 悟	SS23	吉満 栄二
AS24	有村 清光	SS23	田中 佐市
AS24	平田 孝三	SS23	宮本 十郎
AS25	布袋 勝嘉	SS24	田原富貴男
AS25	湯ノ上光昭	SS25	増田 康哉
AS28	岩崎 義雄	SS30	上久保哲朗
AS29	越猪 忠祐	SS35	阿南 忠義
AS30	吉村 之宏	CS23	松田 竹朝
AS30	有村 光生	CS24	岡田 信夫
AS31	高田 一誠	CS25	古川 良英
AS31	村井 敏夫	CS28	伊東祐二郎
AS32	赤池 玉盛	CS28	土黒 定信
AS33	有村 憲一	CS30	内藤 敦
AS36	室園 正敏	CS30	田口 旭幸
AS42	富岡 忠勝	CS30	濱崎 幸男
AS43	和泉 勝一	CS31	丸山 耕治
AS52	芝 敏晃	CS34	小川 泰雄
AS53	三木 洋二	CS50	西澤 保孝
AS57	小早川英明	CS59	村元 晃
AS61	上福元 彰	VS19	山口 正巳
AS62	河口幸一郎	VS23	石丸 義美
AS別23	江島 宏海	VS26	園田 暁郎
AS別24	田中 重守	VS31	蔵原 久輝
FS23	山口 莊治	VS31	豊田方 稔
FS24	紀野 武夫	VS36	松元 計士
FS25	新豊 和夫	VS39	竹之内政雄
FS26	那須 契春	VS58	富永 泰正
FS26	小牧 昌文	VH8	土岐 学司
FS28	吉村 岳丸	GS29	甲斐 研一
FS28	有馬 純敏	GS39	野村 克吉
FS29	中村 金即	GS39	安藤 将
FS30	永仮 肇	ZS55	武田 敬治
FS30	宮山 進	ES45	秋永 孝義
FS31	野口 英昭	ES46	山浦 直
FS31	市来 孝一	ES53	中原 拓郎
FS31	伊藤 正則	HS48	林田 裕子

あらた同窓会役員名簿

名誉会長	赤崎 義則 (農23)		
顧問	岩井 久 (農55)		
会長	藤田 晋輔 (林37)		
副会長	浮津 護 (林38)	池端 裕昭 (農47)	
	上林房行信 (農工51)	富永 茂人 (常任・園48)	
監事	吉山 安夫 (蚕40)	下川 悦郎 (林44)	
	菊川 明 (農48)		
常任幹事	庶務担当	田浦 悟 (農59) 南 雄二 (化59)	
	会計担当	末吉 武志 (農工平5)	
	会報担当	梶木 直也 (化58) 遠城 道雄 (院農59)	
		寺本 行芳 (環平7)	
	名簿担当	津田 勝男 (農55)	
	広報担当	平 瑞樹 (農工62)	
	幹事	坂井 教郎 (賛助)	山本 雅史 (賛助)
		岡 勝 (林55)	大塚 彰 (畜平1)
		窪田 力 (獣平2)	高山 耕二 (院生平8)
		三浦 直樹 (獣平9)	
評議員	内 國弘 (農33)	脇 秀一郎 (農41)	
	松本 秀一 (農44)	東 孝行 (農46)	
	溝添 俊樹 (林41)	大坪 弘幸 (林45)	
	永田 鉄山 (蚕30)	林 満 (蚕35)	
	大岩 勝徳 (蚕36)	稲永 醇二 (化42)	
	吉満浩一郎 (化59)	堀之内達男 (獣33)	
	松元 計士 (獣36)	新納 時英 (獣44)	
	高橋 亘 (獣46)	中村 博大 (畜43)	
	東久保研一 (園48)	大久保祐司 (生平6)	
		石橋松二郎 (蚕平6)	
(役職指定)	各地域支部長 農学部副学部長および学科長 鹿児島支部幹事		

平成26年度一般会計決算書

収入額 6,126,016円 支出額 5,523,830円
繰越金 602,186円

収入の部

Table with 4 columns: 項目, 予算額, 決算額, 差異. Rows include 会費, 年会費, 入会金, 懇親会費, 会報賛助金, 雑収入, 繰越金, 繰入金, 合計.

支出の部

Table with 4 columns: 項目, 予算額, 決算額, 差異. Rows include 会議費, 総会費, 役員会費, 事業費, 印刷費, 卒業祝賀会費, 支部交付金, 旅費, 通信運搬費, 講演会費, 功勞者表彰積立金, 事務局費, 役員報酬, 賃金, 備品費, 消耗品費, 光熱水費, 通信運搬費, 賃借料, 慶弔費, 会館修繕費, 全学同窓会分担金, 雑費, 繰出金, 予備費, 合計.

監査報告書

あらた同窓会平成26年度事業実績並びに会計について監査しましたが、諸帳簿、証拠書類、預金通帳等はよく整理され、事業運営並びに会計事務は適切に処理されているものと認めます。

平成27年10月23日

あらた同窓会

監事 下川 悦郎
監事 吉山 安夫
監事 菊川 明彦

あらた同窓会

会長 藤田 晋 輔 殿

平成26年度同窓会名簿特別会計決算書

収入額 894,514円 支出額 216,510円
繰越金 678,004円

収入の部

Table with 4 columns: 項目, 予算額, 決算額, 差異. Rows include 名簿代, 雑収入, 繰越金, 繰入金, 合計.

支出の部

Table with 4 columns: 項目, 予算額, 決算額, 差異. Rows include 名簿作成費, 名簿購入費, 印刷費, 通信運搬費, 個人情報業務委託費, 予備費, 合計.

平成26年度功勞者表彰特別会計決算書

収入額 250,256円 支出額 72,861円
繰越金 177,395円

収入の部

Table with 4 columns: 項目, 予算額, 決算額, 差異. Rows include 繰越金, 繰入金, 雑収入, 合計.

支出の部

Table with 4 columns: 項目, 予算額, 決算額, 差異. Rows include 祝賀会費, 記念品費, 雑費, 予備費, 合計.

あらた同窓会資産表

平成27年9月末日現在

基金特別会計

Table with 2 columns: 項目, 金額. Rows include 定期預金, 普通預金, 合計.

一般会計

Table with 2 columns: 項目, 金額. Row include 普通貯金.

名簿特別会計

Table with 2 columns: 項目, 金額. Row include 普通貯金.

功勞者表彰特別会計

Table with 2 columns: 項目, 金額. Row include 普通貯金.

Table with 2 columns: 項目, 金額. Row include 総計.

平成27年度一般会計予算書

収入額 6,395,186円 支出額 6,395,186円

収入の部

項目	本年度 予算額	前年度 決算額	差異	
会費	5,480,000	4,641,000	839,000	
年会費	3,000,000	2,329,000	671,000	2,000円×1,500名
入会金	2,080,000	2,067,000	13,000	新入生 10,000円×205名 新正会員 3,000円×10名
懇親会費	400,000	245,000	155,000	5,000円×80名
会報賛助金	0	422,000	△422,000	
雑収入	10,000	26,672	△16,672	利息等
繰越金	602,186	1,033,743	△431,557	
繰入金	303,000	2,601	300,399	基金利息 基金より300,000円
合計	6,395,186	6,126,016	269,170	

支出の部

項目	本年度 予算額	前年度 決算額	差異	
会議費	500,000	375,586	124,414	
総会費	400,000	290,700	109,300	80名
役員会費	100,000	84,886	15,114	幹事会、監事会、評議員会
事業費	3,140,000	2,821,038	318,962	
印刷費	1,100,000	1,020,608	79,392	会報
卒業祝賀会費	300,000	300,000	0	
支部交付金	200,000	193,600	6,400	各支部へ
旅費	250,000	156,280	93,720	支部総会出席等
通信運搬費	1,200,000	1,060,550	139,450	会報送料、振込手数料等
講演会費	40,000	40,000	0	講師謝礼等
功労者表彰積立金	50,000	50,000	0	平成31年度実施
事務局費	1,837,000	1,590,465	246,535	
役員報酬	520,000	510,000	10,000	
賃金	800,000	690,100	109,900	給料等
備品費	100,000	67,651	32,349	
消耗品費	30,000	29,363	637	事務用品等
光熱水費	100,000	89,006	10,994	電気、上下水道等
通信運搬費	200,000	148,293	51,707	インターネット接続料、切手等
賃借料	57,000	56,052	948	会館建物使用料
慶弔費	30,000	0	30,000	祝電、弔電等
会館維持費	0	0	0	
全学同窓会分担金	100,000	100,000	0	
雑費	100,000	86,741	13,259	
繰出金	550,000	550,000	0	名簿特別会計へ
予備費	168,186	0	168,186	
合計	6,395,186	5,523,830	871,356	

平成27年度同窓会名簿特別会計予算書

収入額 1,248,104円 支出額 1,248,104円

収入の部

項目	本年度 予算額	前年度 決算額	差異	
名簿代	20,000	5,000	15,000	名簿4冊
雑収入	100	73	27	利息
繰越金	678,004	339,441	338,563	
繰入金	550,000	550,000	0	一般会計より
合計	1,248,104	894,514	353,590	

支出の部

項目	本年度 予算額	前年度 決算額	差異	
名簿作成費	60,000	54,000	6,000	
名簿購入費	0	0	0	
印刷費	60,000	54,000	6,000	卒業生名簿 500部
通信運搬費	1,000	510	490	
個人情報 業務委託費	162,000	162,000	0	H28年度分
予備費	1,025,104	0	1,025,104	
合計	1,248,104	216,510	1,031,594	

平成27年度功労者表彰特別会計予算書

収入額 227,695円 支出額 227,695円

収入の部

項目	本年度 予算額	前年度 決算額	差異	
繰越金	177,395	200,000	△22,605	
繰入金	50,000	50,000	0	平成27年度積立金
雑収入	300	256	44	利息
合計	227,695	250,256	△22,561	

支出の部

項目	本年度 予算額	前年度 決算額	差異	
祝賀会費	0	15,300	△15,300	
記念品費	0	41,520	△41,520	
雑費	0	2,430	△2,430	
予備費	227,695	13,611	214,084	
合計	227,695	72,861	154,834	

鹿兒島大学農学部あらた同窓会会則

第1章 総則

(名称)

第1条 本会は、鹿兒島大学農学部あらた同窓会（通称：あらた同窓会）と称する。

(目的)

第2条 本会は、会員相互の交流と親睦を図るとともに、農学部的发展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するために次に掲げる事業を行う。

- (1) 会報及び会員名簿の発行
- (2) 農学部との連携及び協力
- (3) その他必要と認められた事項

(支部)

第4条 本会は、支部を必要な地に置くことができる。

第2章 会員

(会員)

第5条 本会は、次に掲げる正会員、学生会員及び賛助会員をもって組織する。

正会員

- 鹿兒島高等農林学校卒業生
- 鹿兒島農林専門学校卒業生
- 鹿兒島大学農学部卒業生
- 鹿兒島大学大学院農学研究科修了者

学生会員

農学部及び大学院農学研究科に在籍する学生

賛助会員

- 現賛助会員（現職教員）
- 旧賛助会員（退職教員）

2 会員は、住所等に移動が生じた場合、その都度事務局に連絡するものとする。

第3章 役員等

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く。

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 会長 | 1名 |
| (2) 常任副会長 | 1名 |
| (3) 副会長 | 3名 |
| (4) 評議員 | 若干名 |
| (5) 監事 | 3名 |
| (6) 常任幹事及び幹事 | 若干名 |
| (7) その他会長が認められた者 | |

(役員を選任)

第7条 会長、常任副会長、副会長、評議員及び監事は、総会において選任する。

2 評議員は、前項の他に各地域支部支部長、農学部副学部長及び学科長、並びに鹿兒島支部幹事をもってこの任に当てる。

3 幹事は、農学部の各講座から推薦された者をもってこの任に当て、その中から庶務、会計、会報および名簿担当の常任幹事を互選する。

(役員の仕事)

第8条 会長は本会を代表して会務を総理する。

2 常任副会長は会務の執行を総括し、事務局を統括する。

3 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。

4 評議員は、総会及び評議員会の構成員として、会務の執行上重要な事項を審議する。

5 監事は会計の執行状況の監査を行う。

6 常任幹事及び幹事は、幹事会の構成員として、本会の事業の企画・立案及び実施等に関する事項について協議を行う。

(役員任期)

第9条 総会で選任された役員任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、役員に欠員を生じた場合の補欠の任期は前任者の残任期間とする。

(名誉会長及び顧問)

第10条 本会に名誉会長及び顧問を置くことができる。

2 名誉会長は会長が委嘱する。

3 農学部長は本会の顧問とする。

4 名誉会長及び顧問は、会議に出席し、意見を述べることができる。

第4章 会議

(会議)

第11条 本会の会議は、総会、評議員会及び幹事会とする。

(総会)

第12条 総会は、第5条第1項及び第10条に掲げる者をもって組織する。

2 総会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 役員を選任に関する事項
- (2) 事業計画及び事業報告に関する事項
- (3) 予算及び決算に関する事項
- (4) 会則の改廃に関する事項
- (5) その他会長が必要と認められた事項

3 総会は、会計年度開始から2ヶ月内に会長が招集する。

4 総会の議長は出席者の中から選出する。

5 議事は出席者の過半数で決するが、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(臨時総会)

第13条 臨時総会は、会長が必要と認める場合に開催できる。

2 臨時総会の議長の選出並びに議決は前条の規定によるものとする。

(評議員会)

第14条 評議員会は、会長、常任副会長、副会長及び評議員をもって組織する。

2 評議員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 総会に付議すべき事項
- (2) 本会の運営における重要な業務の執行に関する事項

(幹事会)

第15条 幹事会は、常任副会長、常任幹事及び幹事をもって組織する。

2 幹事会は、次に掲げる事項を協議する。

- (1) 総会及び評議員会に付議する議案書の作成
- (2) 本会が行う業務の具体的執行計画等

第5章 会計

(経費)

第16条 本会の経費は、正会員及び現賛助会員の会費、学生会員の入会金及び会費、寄付金等をもって充てる。

2 正会員及び現賛助会員は、年会費として2,000円を納付する。

3 学生会員は、入会金及び在学中の会費として、入学時に、10,000円を納付する。

4 年齢が満80歳に達した会員は会費納付を免除する。

(会計年度)

第17条 本会の会計年度は、10月1日から翌年9月30日までとする。

(監査)

第18条 監事は、会計年度ごとの事業実績並びに会計の執行について監査を行い、その結果を会長に報告する。

第6章 事務局等

第19条 本会の事務を処理するために事務局を置く。

2 事務局は鹿兒島大学農学部あらた会館内に置く。

(雑則)

第20条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附則

本会則は、昭和28年12月12日より施行する。

本会則は、昭和53年11月23日より改訂施行する。

本会則は、昭和60年11月23日より改訂施行する。

本会則は、昭和61年11月23日より改訂施行する。

本会則は、昭和62年11月23日より改訂施行する。

本会則は、平成12年11月23日より改訂施行する。

本会則は、平成23年11月23日より改訂施行する。

覚書

1 過去に終身会費を納付した終身会員は年会費の納付を免除する。

2 あらた同窓会功労者表彰は、2009年を起点として、5年毎に行う。

編 集 後 記

昨年11月に開催された平成27年度総会において、長年にわたり同窓会事務局の面倒をみていただいた林満先生が、常任副会長を退任されました。平成13年のご退官以来14年間の長きにわたり、実務面の要として同窓会運営を支えていただきました。この間、平成21年11月の開学100周年記念事業の成功を支えられたのはじめ、財政状況が逼迫するなかで同窓会活動を活性化するためにご尽力をいただきました。また事務員の富永裕子さんも退職されることになりました。私たち学内幹事を、さまざまな面で助けていただきました。心から感謝いたします。

後任には平成24年度から3年間学部長を務められた富永茂人先生が常任副会長として事務局を総括され、高嶋明美さんが事務員として補助されます。われわれ学内幹事も心機一転、新たな気持ちと発想で同窓会を盛り上げていかなければと考えています。ご支援をよろしくお願いいたします。

(文責 生物資源化学科 樗木直也)

鹿児島大学農学部 あらた同窓会

〒890-0065

鹿児島市郡元一丁目21-24

TEL・FAX 099 (285) 8537

e-mail arataikai@mc2.seikyou.ne.jp

振替口座 02010-2-876

事務局の業務日

月、水、金(10:00~16:00)

印刷 (株)廣済堂

〒560-8567

大阪府豊中市蛍池西町2-2-1

TEL: 06 (6855) 9241



平成28年1月24日 きびしい寒波に見舞われた農学部正門